

# ふじのくにの地域外交

中国・浙江省、モンゴル、韓国編

将来に向け戦略的な交流を展開することで、国際的な存在感を高めていく静岡県の地域外交。中国、浙江省、モンゴル、韓国との交流を通して見えてきた静岡県の外交力と将来性を紹介する。

## 円熟期を迎えた浙江省との関係

1982年の友好交流協定締結以来、静岡県と中国・浙江省は、防災、環境保護、経済、農業、医療衛生、教育、文化・音楽、観光などの分野で幅広い交流を深めてきた。今年8月には、昨年袋井市で開催された「静岡県・浙江省友好交流卓球大会」の答礼大会が浙江省で行われ、知事を団長とする128人の訪問団が同省の湖州市を訪れた。競技は小学生、中学生、高校生、一般、50歳以上、60歳以上、65歳以上に分かれてシングル戦を行ない、各年代で熱闘が繰り広げられた。会場には互いの健闘を称え合う言葉とともに、再会を喜ぶ声も多数響き渡り、両県省の絆の深さを再認識する大会となった。特筆すべきは訪問に合わせて行われた知事と李強省長並びに夏宝龙書記との会談だ。会談では、今後環境や健康、長寿・介護

の分野において両県省の交流を進めることを確認したが、中国の地方政府において共産党及び政府の指導者が共に対応するのは最高の礼遇であり、33年におよぶ両県省の親密ぶりを改めて内外にアピールする形となった。

## スピードのあるモンゴル外交

2011年に友好協定を締結した静岡県とモンゴル・ドルノゴビ県との交流はまだ5年に満たない。しかし、長年の国際交流で培った外交力を背景に、両県省の関係は急速に深まっていく。今年も8月に知事を団長とする交流団をモンゴルへ派遣し、サイハンビレグ首相を含む5人の大臣と面会するなど、政府機関との関係づくりを進めながら、ドルノゴビ県のガンホヤク知事とは青少年交流の重要性について共通認識を深めた。

今回の訪問は成果が多い。首都の



夏宝龙中国共産党浙江省委員会書記との会談。夏宝龙書記から川勝知事に対し、訪問団の来浙への感謝の言葉とともに、静岡県民に「くれぐれもよろしく伝えてほしい」との言葉が伝えられる。



浙江省で開催された友好交流卓球大会の始球式の後、参加者に手を振る川勝知事と李省長。当日、256人の両県省の選手が卓球で競い合う。



ウランバートルで行われた政府関係機関との会談で、教育・文化・科学省のガントゥムル大臣と「教育・文化・科学分野」の協力に関する覚書を調印。また、保健・スポーツ省では焼津市長と伊豆の国市長が東京オリンピックの事前キャンプにかかわる覚書を調印した。また、食糧・農牧省では農業分野、産業省では工業分野の交流拡大に向けた関係づくりを確認している。静岡県とモンゴルはこうした関係性を土台にして、経済や人的交流を深めながら、双方のメリットを拡大しようとしている。5年足らずで築いた濃密な信頼関係。このスピード感も地域外交の大きな原動力だ。

## 国をも動かす韓国との関係

2013年に友好協定を締結した静岡県と韓国・忠清南道(チュンチョンナムド)との交流も経済、文化、教育などの分野で進んでいる。今年も同道からの招待を受け、9月に知事を団長とする訪問団を派遣。同道庁で行われた「東アジア地方政府3農フォーラム」に出席し、本県が推進する「ふじのくに食の都づくり」をPRした。さらに同月、本県大学生が忠清南道を訪れ、現

地の大学生との交流などを行うことで、両県道の将来を担う青少年同士の交流を促進した。



モンゴルウランバートルで教育・文化・科学省のガントゥムル大臣と「教育・文化・科学分野」の協力に関する覚書を調印。



ドルノゴビ県のガンホヤク知事と会談。青少年交流の重要性について共通認識を深めた。

また、韓国の実質的なナンバー2ともいわれる大統領秘書室長の李丙琪(イ・ヒョンギ)氏とも面談を果した。地方政府の訪問団に対して秘書室長が対応するのは極めて異例であり、韓国との交流に積極的な本県に対する、韓国政府の期待の高さをうかがわせる。ソウル大学から依頼により同大学で知事が講演したことも本県に対する関心の強さを感じさせる。

静岡県と忠清南道の関係は7世紀の「白村江の戦い」までさかのぼることができる。さらに、江戸時代に本県を何度も往来した朝鮮通信使や、彼らを駿府城にて歓待し、朝鮮王朝との平和外交を重んじた徳川家康公など、日韓の平和的な交

世界クラスの場での地域外交をリード。



ソウル大学国際大学院において、「ポスト東京時代と新しい日韓関係—「ふじのくに」からたどる日韓交流の流れ—」と題して、川勝知事が日本研究者らを対象に講演。



忠清南道の安熙正(アン・ヒジョン)知事と対談。友好協定3周年を記念する事業の実施等、一層の交流拡大に取り組むことを確認。

流の歴史にとつて非常に重要な場であり、そうした歴史的な縁を基にした本県と韓国との交流は国レベルの外交に一石を投じる可能性を有している。

## 静岡県のプレゼンスを確立

今年8月から9月にかけて、静岡県は中国、モンゴル、韓国へ訪問団を派遣し、それぞれの国や地域と友好の絆を再認識するとともに、経済、農業、教育、文化、観光など、さまざまな分野で将来につながる大きな成果をあげた。今後、その地域外交の基盤を生かして、企業レベル、市民レベルでの交流が広がっていき、海外における静岡県のプレゼンスは益々高まり、多大なメリットを生み出すに違いない。

